



大船渡水産振興センター「復興板」

平成30年9月20日発行 第67号

1 漁港関係施設の災害復旧工事 進捗状況

平成30年8月31日現在、管内の県営漁港関係施設にかかる災害復旧工事の進捗率は、75%となっています。(平成30年8月31日現在)

	災害査定 (H29再調査決定額)		発注		進捗状況		完成
	件数	本工事費 (千円)	件数	発注額 (千円)	出来高 (千円)	率 (%)	件数
漁港	242	34,194,563	238	32,406,039	32,250,110	94	227
漁港海岸	11	35,568,708	11	25,759,005	20,127,706	57	3
漁場	2	498,880	2	498,880	498,880	100	2
合計	255	70,262,151	251	58,663,924	52,876,696	75	232

・ さっちゃんNEWS part 1



開会式



会場の様子



サンマ無料提供

< 初さんまうにアワビ帆立かきホヤわかめ祭が開催されました >

8月26日に、大船渡市蛸ノ浦漁港で「初さんまうにアワビ帆立かきホヤわかめ祭」が開催されました。
このまつりは、地元の水産加工会社や有志で構成される実行委員会が主催して、平成26年から毎年開催されています。
今年は昭和61年から開催されていた「三陸大船渡まつり」が幕を下ろすことになり、同まつりと統合して開催されることになりました。
開会式では、鈴木俊一五輪パラリンピック担当大臣、戸田公明市長ら来賓が祝辞を述べ、会場では、鮮魚販売、カキやホタテの浜焼きの販売の他、さんま焼き師が焼いた炭火焼きサンマが無料で振舞われました。



★★★スマイル130 (いちさんまる) プロジェクトについて★★★

「130万人誰もが笑顔に」をスローガンに掲げ、「県民の笑顔のために」、「感謝の笑顔を(県外、世界に)届ける」を活動のコンセプトとし、復興に取り組む職員の気持ちを盛り上げ、復興に向けた県民と一体感のある取組を展開し、岩手のあるべき未来に追いつく復興を推進する取組みです。

2 水産施設等の復旧・魚市場の水揚げ状況

(1) 共同利用施設等の復旧状況

漁協や漁業者、水産加工業者などが共同で利用する施設の整備を支援しています。

事業年度	施設名	事業主体
平成30年度	水産物荷捌き施設	大船渡市漁業協同組合（12月着工予定）

(2) 大船渡魚市場の水揚げ状況（平成30年1月1日から8月末累計）

平成30年		平成29年		震災前 (H20～H22の平均)		前年比 (H30/H29)		震災前（H20～ H22の平均）との 対比	
数量(ト)	金額(千円)	数量(ト)	金額(千円)	数量(ト)	金額(千円)	数量(%)	金額(%)	数量(%)	金額(%)
16,884	2,243,963	12,312	1,747,701	21,010	2,287,059	137	128	80	98

出典：いわて大漁ナビ

平成30年1月から8月までの水揚げ量は、昨年の約1.4倍、震災前の約8割でした。主な水揚げ魚種は、イサダ(5,885トン、629,072千円)、マイワシ(5,013トン、252,728千円)、サバ類(2,565トン、218,600千円)などでした。イサダ漁が漁期を通じて好漁だったこと、マイワシが1～2月に定置網で、5～6月にまき網で好漁だったことなどにより、昨年より水揚げが増えています。8月25日にはサンマが初水揚げされ、今後の水揚げ増が期待されます。

・ さっちゃんNEWS part2

< 広田湾漁協青壮年部気仙支部が第60回漁村活動実績発表大会 において「最優秀賞」を受賞しました >

9月12日開催の第60回漁村活動実績発表大会（岩手県・県漁連の共催）において、広田湾漁協青壮年部気仙支部が、「エゾシカゲガイの灯を受け継ぐ」と題して、エゾシカゲガイ養殖が東日本大震災を乗り越え、地域の基幹産業として定着するまでの約25年間の取組みについて発表しました。その結果、最優秀賞を受賞し、平成31年3月に東京で開催される全国青年・女性漁業者交流大会の岩手県の代表として発表することになりました。



発表の様子



表彰式



「さけの子さっちゃん」は、
大船渡水産振興センターの
PRキャラクターです



『復興板』に関するお問い合わせ先
沿岸広域振興局水産部
大船渡水産振興センター〔担当 宮田〕
岩手県大船渡市猪川町字前田6-1合同庁舎4階
TEL:0192-27-9915 FAX:0192-21-1229
E-mail:BG0004@pref.iwate.jp